

情報処理学会 I S 研究会での新情報システム学序説の講演報告

2015 年 3 月 23 日

新情報システム学体系調査研究委員会 伊藤重隆

情報処理学会 I S 研究会の研究発表大会（3 月 6 日）にて、招待講演として、当学会で発刊しました新情報システム学序説について、芳賀委員より説明し、好評をいただきました。その概要を以下に報告させていただきます。

◆情報処理学会 I S 研究会「情報システムと社会環境研究会」研究発表会：

「情報システムと社会環境研究会」の研究分野は七つのサブ分野（・情報システムの構想と計画、・情報システムの開発と運用、・情報システムの利用、・情報システムと社会、・情報システムの理論と技術、・情報システムの維持と管理、・情報システムの教育）から構成される。

これらの分野に関して、年 4 回程度、研究発表会を開催している。

◆開催日：平成 27 年 3 月 6 日（金）10 時～17 時 30 分

◆会場：東京電機大学 東京千住キャンパス

1 号館 4 階 10417 情報メディア学科演習室

◆招待講演（13:30～15:00）：

★新情報システム学序説 -人間中心の情報システムを目指して！-

講師：情報システム学会・新情報システム学体系調査研究委員会 芳賀正憲氏

◆講演主旨

近代産業は、科学と技術のスパイラルな進化により発展してきた。ところが情報システム産業の場合、科学的な基盤がなく、技術は経験的に蓄積されてきている。このため他分野のように初等中等教育に基礎をもつ体系的な専門教育ができず、情報システム産業は労働集約的との批判を受け続けている。問題の抜本的解決のため、情報システム学会では、情報システムに関して基本概念、歴史、理論、実践の方法論を体系化し明確にした、言わば親学問をつくることを意図し、この度『新情報システム学序説』を完成した。この中で 1～3 章では、基礎情報学にもとづいて情報概念を示し、また、人間の情報行動の基本モデルを明らかにした上で、人間が歴史的にどのように情報システムをつくってきたのか述べている。120 万人を超える専門家はもちろん、広く国民すべてが持つべき、情報と情報システムに関する基本的な考え方として、情報処理学会の皆様にご紹介し、ご示唆も得てさらに詳細化を進めていきたい。

説明内容は添付の資料を参照いただきたい。

◆参加者数：21 名

◆質疑応答：

- ・序説のリベラルアーツとしての位置付けに関する確認がなされた。
- ・また、社会主義経済と市場主義経済の共存を提案しているがその具体的イメージの質問がなされ、北欧の取り組みを紹介された。

◆備考：

当学会会員であり序説の執筆にも参加された、刀川先生（室蘭工業大学）が I S 研究会の主査をされており、この度、本講演が実現された。

◆説明資料：

「150306 新情報システム学序説 講演資料」

◆所感：

新情報システム学序説の目的や内容が、本来、情報処理学会や I S 研究会が取り組むべき本質的なテーマでもあり、その関連が強いこともあり、全体にその意義、背景、内容について一定の理解が得られたと感じられた。

したがって、新情報システム学の内容を更に進化させながら、引き続きこのような説明と討議の場を学会や企業、自治体、教育団体などに提供してゆくことが重要であると考えます。また、それにより当学会の理念や活動成果を広め、情報社会の健全な発展に貢献してゆけると確信する次第である。

◆問合せ先：

<新情報システム学体系調査研究委員会：渋谷照夫>

e-mail: shibu_t4771■kym.biglobe.ne.jp （■を@に置き換えてください）

以上